

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月13日
【四半期会計期間】	第2期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	株式会社安藤・間
【英訳名】	HAZAMA ANDO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 野村俊明
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂六丁目1番20号
【電話番号】	東京03(6234)3600
【事務連絡者氏名】	C S R推進部長 山口功人
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂六丁目1番20号
【電話番号】	東京03(6234)3606
【事務連絡者氏名】	C S R推進部長 山口功人
【縦覧に供する場所】	株式会社安藤・間 名古屋支店 （名古屋市中区丸の内一丁目8番20号） 株式会社安藤・間 大阪支店 （大阪市福島区福島六丁目2番6号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第1期 第2四半期 連結累計期間	第2期 第2四半期 連結累計期間	第1期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	165,766	170,588	371,216
経常利益 (百万円)	3,368	7,034	11,258
四半期(当期)純利益 (百万円)	12,411	4,296	16,414
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	13,866	5,847	17,378
純資産額 (百万円)	52,723	59,311	54,381
総資産額 (百万円)	245,708	256,243	260,646
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	78.17	23.25	96.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	67.37	23.22	88.59
自己資本比率 (%)	21.2	22.9	20.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,194	14,105	7,464
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	542	967	3,593
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,023	1,479	53
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	57,121	84,142	70,024

回次	第1期 第2四半期 連結会計期間	第2期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.69	18.33

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、平成26年9月30日現在、当社、子会社13社、関連会社6社で構成され、建設事業（土木・建築）を主な事業とし、さらに各事業に関連する事業活動を展開している。

当社グループの事業に係わる位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりである。

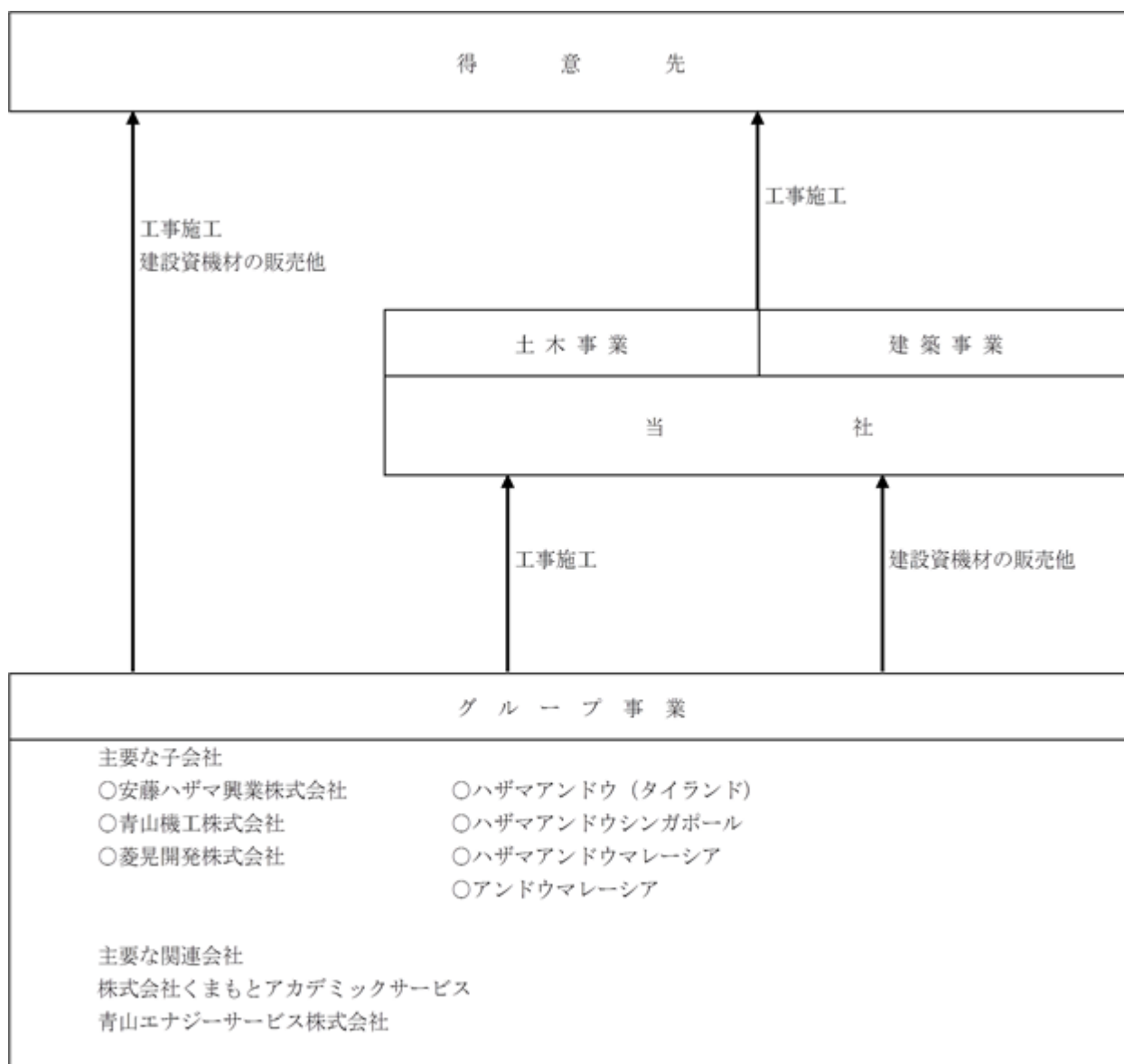
建設事業（土木事業・建築事業）

当社は総合建設業を営んでおり、セグメントを土木事業、建築事業に区分している。

グループ事業

連結子会社である、安藤ハザマ興業株式会社は建設用資材の販売及びリースを、青山機工株式会社は土木及び建築工事の施工等を、菱晃開発株式会社は不動産の売買、賃貸並びにその仲介を、ハザマアンドウ（タイランド）、ハザマアンドウシンガポール、ハザマアンドウマレーシア及びアンドウマレーシアは現地国における建設事業を、それぞれ主要事業としている。

事業の系統図は次のとおりである。



○ 連結子会社

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものである。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって鉱工業生産に足踏みが見られたものの、景気は引き続き回復基調にあり、復興需要等による下支えに加えて、政府によるデフレ脱却・経済成長政策の着実な実行により、企業収益や業況判断は、改善に向かった。

今後についても、海外景気の下振れ等、国内景気を下押しするリスクが引き続き存在するものの、各種政策・対策等の効果を背景に、景気は緩やかに回復していくことが期待されている。

当社グループの主たる事業である建設産業においては、復興関連事業の本格化、政府建設投資の堅調な推移に加え、民間設備投資が回復傾向にあるなど建設需要は堅調に推移しているが、建設技能労働者の不足、建設資材価格の上昇などもあり、予断を許さない経営環境が続いている。

こうした状況のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,705億円（前年同四半期1,657億円、前年同四半期比2.9%の増加）、営業利益71億円（前年同四半期38億円、前年同四半期比88.0%の増加）、経常利益70億円（前年同四半期33億円、前年同四半期比108.8%の増加）、四半期純利益は42億円（前年同四半期124億円、前年同四半期比65.4%の減少）となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

（土木事業）

受注高は863億円（前年同四半期比150.9%の増加）、完成工事高は529億円（前年同四半期比11.0%の増加）、営業利益は38億円（前年同四半期比8.5%の増加）となった。

（建築事業）

受注高は1,104億円（前年同四半期比15.2%の減少）、完成工事高は1,075億円（前年同四半期比0.6%の減少）、営業利益は42億円（前年同四半期比696.2%の増加）となった。

（グループ事業）

売上高は91億円（前年同四半期比9.5%の増加）、営業利益は6億円（前年同四半期比0.8%の増加）となった。

（その他）

売上高は9億円（前年同四半期比16.4%の減少）、営業利益は2億円（前年同四半期比5.8%の増加）となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループの資金状況は、現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間の期末残高が期首残高と比較して141億円増加し、841億円となった。各キャッシュ・フローの状況及び要因は次のとおりである。

営業活動によるキャッシュ・フローは、141億円の資金増加（前年同四半期は71億円の資金減少）となった。税金等調整前四半期純利益69億円、売上債権の減少234億円などの資金増加要因が、仕入債務の減少164億円などの資金減少要因を上回ったことによる。

投資活動によるキャッシュ・フローは、匿名組合清算による収入などにより、9億円の資金増加（前年同四半期は5億円の資金増加）となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、14億円の資金減少（前年同四半期は50億円の資金増加）となった。借入金の返済が借入を上回ったことによる。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発への投資総額は約7億円である。この中には、社外からの受託研究に係る費用約62百万円が含まれている。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの本業である建設産業は、景気動向の影響を比較的受けやすい傾向にある。

国内景気は各種政策の効果の発現により緩やかな回復が続くものと見込まれる。国内建設市場についても堅調な政府建設投資に加え、景気回復に伴う民間建設投資の回復が期待される。その一方で、世界景気の下振れによる国内景気の失速リスクに加え、労務逼迫や資材高騰などによる建設コストの上昇が懸念される。

(6) 戦略的現状と見通し

建設市場は、堅調に推移する政府建設投資に加え、民間建設投資の回復が期待される一方で、労務逼迫や資材価格の高止まりなど建設コストの上昇等が懸念される。

当社は、このような事業環境のもと、平成25年2月に策定した「安藤ハザマ中期経営計画」に基づき、新たな挑戦、新しい企業価値の創造をテーマに、

- 土建コラボレーションによる営業力・提案力の向上
- スケールメリットの発揮、生産システム改善によるコストダウン
- 保有技術・ノウハウや施工実績の活用、技術開発の強化でシェアアップ、収益力を改善
- 事業領域拡大に向けた取り組み

を基本戦略とする諸施策を展開していく。

また、復興関連事業が本格化する中、顧客ニーズを的確に把握し、機動的に諸施策に反映していく。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

国内景気は緩やかな回復基調が続くと見込まれる中、建設市場も堅調に推移する政府建設投資に加え、民間建設投資の回復が期待される一方で、労務逼迫や資材価格の高止まりなど建設コストの上昇が懸念される。

このような経営環境に対処すべく、平成25年2月に策定した「安藤ハザマ中期経営計画」の基本戦略、重点施策を展開し、中期企業ビジョンである「『安藤ハザマ』ブランドを確立し、強い経営基盤と高い収益力をもつ、存在感の高い企業を目指す」を実現していく。

また、経営環境の変化を的確に把握し、復旧・復興に向けた取り組みと合わせて、機動的に諸施策に反映することで、建設産業の一員としての責任と役割を果たしていく。

(8) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数（就業人員数）に著しい変動はない。

(9) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績に著しい変動はない。

(10) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について重要な変更はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	185,209,189	185,209,189	東京証券取引所 (市場第一部)	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数は100株
計	185,209,189	185,209,189	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年9月30日	-	185,209	-	12,000	-	12,117

(6)【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番11号	27,315	14.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号	13,542	7.31
安藤ハザマグループ取引先持株会	東京都港区赤坂六丁目1番20号	6,888	3.72
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	6,476	3.50
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番12号	4,089	2.21
安藤ハザマグループ従業員持株会	東京都港区赤坂六丁目1番20号	3,470	1.87
シービーロンドンオールイーファンド1 16	MINISTRIES COMPLEX, BLOCK 3, 2ND FLOOR, PO BOX 64, 13001 SAFAT-KUWAIT	3,227	1.74
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLI ENTS	338 PITT STREET SYDNEY NSW 200 AUSTRALIA	2,855	1.54
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町二丁目6番1号	2,616	1.41
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	2,404	1.30
計	-	72,886	39.35

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社および資産管理サービス信託銀行株式会社については、信託業務に係る株式数を把握していない。

(注)1 株式会社みずほ銀行およびその共同保有者から、平成26年5月22日付で大量保有報告書の提出があり、平成26年5月15日現在で次のとおり株式を保有している旨の報告を受けたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないので、上記の大株主は当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載している。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	6,476	3.50
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	635	0.34
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	3,352	1.81
計	-	10,465	5.65

- 2 三井住友信託銀行株式会社およびその共同保有者から、平成26年6月19日付で大量保有報告書（変更報告書）の提出があり、平成26年6月13日現在で次のとおり株式を保有している旨の報告を受けたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないので、上記の大株主は当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載している。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	5,889	3.18
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	168	0.09
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	5,437	2.94
計	-	11,495	6.21

- 3 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから、平成26年7月22日付で大量保有報告書（変更報告書）の提出があり、平成26年7月14日現在で次のとおり株式を保有している旨の報告を受けたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないので、上記の大株主は当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載している。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	5,671	3.06
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	1,759	0.95
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	167	0.09
国際投信投資顧問株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目1番1号	2,896	1.56
計	-	10,494	5.67

- 4 JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社およびその共同保有者から、平成26年9月19日付で大量保有報告書（変更報告書）の提出があり、平成26年9月15日現在で次のとおり株式を保有している旨の報告を受けたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないので、上記の大株主は当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載している。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	9,472	5.11
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	93	0.05
ジェー・ピー・モルガン・セキュリ ティーズ・ピーエルシー	英国 ロンドン E14 5JP カナリー・ウォー フ、バンク・ストリート25	399	0.22
ジェー・ピー・モルガン・クリアリン グ・コーポレーション	アメリカ合衆国 11245 ニューヨーク州 ブ ルックリン スリー・メトロ・テック・セン ター	672	0.36
計	-	10,638	5.74

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 377,700	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他) 1	普通株式 184,536,000	1,845,360	同上
単元未満株式 2	普通株式 295,489	-	同上
発行済株式総数	185,209,189	-	-
総株主の議決権	-	1,845,360	-

- 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が19,900株(議決権199個)含まれている。
- 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式28株が含まれている。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安藤・間	東京都港区赤坂 六丁目1番20号	377,700	-	377,700	0.20
計	-	377,700	-	377,700	0.20

(注) 当第2四半期会計期間末(平成26年9月30日)における自己株式数は、普通株式377,728株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合は0.20%)である。

2【役員の状況】

該当事項はない。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	70,773	84,180
受取手形・完成工事未収入金等	111,297	87,828
未成工事支出金	5,191	5,745
その他のたな卸資産	4,727	4,367
繰延税金資産	4,094	4,117
その他	9,938	14,981
貸倒引当金	55	43
流動資産合計	205,969	201,176
固定資産		
有形固定資産		
土地	19,575	19,575
その他(純額)	9,135	8,717
有形固定資産合計	28,710	28,293
無形固定資産		
投資その他の資産	1,202	1,168
投資有価証券	15,558	17,250
繰延税金資産	3,836	3,066
その他	5,625	5,543
貸倒引当金	255	255
投資その他の資産合計	24,764	25,605
固定資産合計	54,677	55,066
資産合計	260,646	256,243

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	100,169	83,726
短期借入金	26,302	22,142
1年内償還予定の社債	326	351
未払法人税等	2,650	2,586
未成工事受入金	25,758	32,610
完成工事補償引当金	1,304	1,277
賞与引当金	1,015	1,016
工事損失引当金	3,052	2,200
その他	17,864	19,764
流動負債合計	178,443	165,674
固定負債		
社債	846	1,008
長期借入金	11,945	15,598
退職給付に係る負債	13,943	13,729
環境対策引当金	321	321
繰延税金負債	73	74
その他	691	524
固定負債合計	27,821	31,257
負債合計	206,264	196,931
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,000	12,000
資本剰余金	15,010	15,004
利益剰余金	27,603	30,976
自己株式	95	77
株主資本合計	54,519	57,903
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	954	2,440
繰延ヘッジ損益	2	3
為替換算調整勘定	130	92
退職給付に係る調整累計額	1,855	1,741
その他の包括利益累計額合計	768	794
新株予約権	21	17
少数株主持分	608	596
純資産合計	54,381	59,311
負債純資産合計	260,646	256,243

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高		
完成工事高	162,052	164,378
その他の事業売上高	3,713	6,209
売上高合計	165,766	170,588
売上原価		
完成工事原価	151,353	149,471
その他の事業売上原価	2,764	5,160
売上原価合計	154,117	154,632
売上総利益		
完成工事総利益	10,699	14,907
その他の事業総利益	949	1,048
売上総利益合計	11,648	15,955
販売費及び一般管理費	7,834	8,787
営業利益	3,813	7,167
営業外収益		
受取配当金	163	107
為替差益	-	412
その他	181	140
営業外収益合計	344	659
営業外費用		
支払利息	463	432
その他	325	359
営業外費用合計	789	792
経常利益	3,368	7,034
特別利益		
負ののれん発生益	10,579	-
その他	17	5
特別利益合計	10,597	5
特別損失		
訴訟関連損失	0	37
合併関連費用	113	-
その他	5	4
特別損失合計	119	42
税金等調整前四半期純利益	13,846	6,997
法人税等	1,359	2,694
少数株主損益調整前四半期純利益	12,486	4,303
少数株主利益	74	7
四半期純利益	12,411	4,296

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	12,486	4,303
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,209	1,486
繰延ヘッジ損益	1	1
為替換算調整勘定	169	57
退職給付に係る調整額	-	113
その他の包括利益合計	1,380	1,543
四半期包括利益	13,866	5,847
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,723	5,859
少数株主に係る四半期包括利益	143	12

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	13,846	6,997
減価償却費	579	529
負ののれん発生益	10,579	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	600	12
退職給付引当金の増減額(は減少)	156	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	212
受取利息及び受取配当金	191	138
支払利息	463	432
為替差損益(は益)	4	569
有形固定資産売却損益(は益)	8	3
合併関連費用引当金の増減額(は減少)	937	-
売上債権の増減額(は増加)	17,053	23,429
未成工事支出金の増減額(は増加)	1,363	554
たな卸資産の増減額(は増加)	1,495	360
立替金の増減額(は増加)	1,745	502
仕入債務の増減額(は減少)	26,373	16,407
未成工事受入金の増減額(は減少)	1,595	6,854
預り金の増減額(は減少)	1,063	2,614
未払消費税等の増減額(は減少)	513	3,124
その他	555	2,295
小計	5,212	17,399
利息及び配当金の受取額	151	157
利息の支払額	489	413
法人税等の支払額	1,643	3,039
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,194	14,105
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	30	40
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	149	-
有形固定資産の取得による支出	587	172
有形固定資産の売却による収入	609	12
定期預金の払戻による収入	650	727
貸付けによる支出	35	5
貸付金の回収による収入	31	50
匿名組合清算による収入	-	392
その他	244	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	542	967

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,348	4,209
長期借入れによる収入	10,120	8,214
長期借入金の返済による支出	6,333	4,512
社債の発行による収入	780	375
社債の償還による支出	260	188
配当金の支払額	474	923
その他	157	236
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,023	1,479
現金及び現金同等物に係る換算差額	406	524
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,222	14,117
現金及び現金同等物の期首残高	32,659	70,024
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	22,440	-
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	3,243	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,121	84,142

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項なし。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更した。

なお、この変更による影響はない。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用の算定については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて算定している。

ただし、当該見積実効税率を用いて算定すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法を採用している。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

下記の不動産前受金及び借入金に対して債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
(株)プレサンスコーポレーション 従業員の借入	94百万円	従業員の借入 7百万円
従業員の借入	3	-
計	97	計 7

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
従業員給与手当	3,530百万円	3,294百万円
賞与引当金繰入額	276	511
退職給付費用	306	374

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	57,444百万円	84,180百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	323	38
現金及び現金同等物	57,121	84,142

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	316	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年6月27日 定時株主総会	第種 優先株式	利益剰余金	58	78.40	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年6月27日 定時株主総会	第種 優先株式	利益剰余金	13	88.40	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年6月27日 定時株主総会	第種 優先株式	利益剰余金	86	98.40	平成25年3月31日	平成25年6月28日
合計			474			

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項なし。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年4月1日付で、安藤建設株式会社と合併した。この結果、第1四半期連結会計期間において資本剰余金が9,117百万円、自己株式が3,120百万円増加した。また、平成25年9月27日開催の取締役会決議に基づき、平成25年9月27日付で、自己株式(第種優先株式750,000株、第種優先株式151,224株、第種優先株式250,000株)の消却を実施した。この結果、当第2四半期連結会計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ1,494百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が16,627百万円、自己株式が1,715百万円となっている。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	923	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年11月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	554	3.00	平成26年9月30日	平成26年12月8日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	グループ 事業	合計				
売上高								
外部顧客への売上高	47,736	108,163	8,321	164,221	1,164	165,386	379	165,766
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	16,246	16,246	31	16,277	16,277	-
計	47,736	108,163	24,567	180,467	1,196	181,664	15,897	165,766
セグメント利益	3,558	533	640	4,731	247	4,978	1,165	3,813

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、調査・研究受託業務等を含んでいる。

- 2 セグメント利益の調整額 1,165百万円には、セグメント間取引消去及びその他24百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,189百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2 報告セグメントごとの資産の著しい金額の変動

平成25年4月1日付で、当社を存続会社、安藤建設株式会社を消滅会社とする合併を行ったことにより、前連結会計年度末に比べて、資産が著しく増加している。なお、期首に受け入れた資産の金額は土木事業及び建築事業セグメントの合計が65,080百万円、グループ事業セグメントが9,529百万円である。

なお、土木事業及び建築事業セグメントでは、財務情報として資産に関する情報を有していないため、これらの事業セグメントには資産を配分していない。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	グループ 事業	合計				
売上高								
外部顧客への売上高	52,981	107,523	9,109	169,614	973	170,588	-	170,588
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	0	18,278	18,279	77	18,356	18,356	-
計	52,981	107,523	27,388	187,893	1,050	188,944	18,356	170,588
セグメント利益	3,860	4,244	645	8,749	261	9,011	1,843	7,167

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、調査・研究受託業務等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 1,843百万円には、セグメント間取引消去及びその他 5百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,837百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額(円)	78.17	23.25
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	12,411	4,296
普通株主に帰属しない金額(百万円)	41	-
(うち第1種優先株式(累積型配当優先株式)に係る優先株式配当額(第2四半期累計期間に係る要支払額)(百万円))	(41)	(-)
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	12,370	4,296
普通株式の期中平均株式数(千株)	158,246	184,802
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	67.37	23.22
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	41	-
(うち第1種優先株式(累積型配当優先株式)に係る優先株式配当額(第2四半期累計期間に係る要支払額)(百万円))	(41)	(-)
普通株式増加数(千株)	25,988	252
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

(1) 重要な訴訟事件等

提出日現在、提出会社を含む多数の建設会社を被告とする全国トンネルじん肺訴訟が、全国6地方裁判所に提訴され審理中である。

また、提出会社は、国立大学法人新潟大学に対し、陽子線がん治療機器導入に関して同法人の依頼により立替えた金員約18億円について、支払を求める訴訟を提起している。

(2) 中間配当に関する取締役会の決議は、次のとおりである。

決議年月日	平成26年11月13日
中間配当金の総額	554,494,383円
1株当たりの金額	3円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月8日

(注)平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払いを行う。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

株式会社安藤・間
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺田 昭仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高尾 英明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安藤・間の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安藤・間及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。